

第36回 NSRI都市・環境フォーラム
(no.276)

『地域おこし日本橋

架橋100年を前に 振り返くと未来が見える』



講師

中村胤夫氏

名橋「日本橋」保存会 会長 三越 特別顧問

日時 2010年12月17日(金)

NSRIホール

目 次

～ 振り向くと未来が見える！～ 日本橋のあゆみ	3
1. 日本橋の生いたち	
2. 日本橋の名前の由来	
3. 熙代勝覧 <small>きだいしょうらん</small> にみる日本橋の繁栄	
4. 石橋をつくった人たち	
5. 大震災がもたらしたもの	
よみがえる日本橋	8
1. 名橋「日本橋」保存会の活動	
2. 日本橋再生プロジェクト	
3. E C O・E D O日本橋運動	
4. 毎日が祭だ！	
よみがえれ日本橋	18
1. 日本橋(石橋)架橋100年の意義	
2. 日本橋クリーニングプロジェクト	
3. 未来の江戸をつくろう	
フリーディスカッション	

23

中村 胤夫(なかむら・たねお)氏

名橋「日本橋」保存会 会長 三越 特別顧問

1936年 11月 13日生 長野県出身 1961年 慶應義塾大学法学部卒業

2002年 株式会社三越代表取締役社長 2005年 同社代表取締役会長

2006年 同社相談役 2009年 同社特別顧問

< 主な外部団体職歴 >

日本小売業協会会長、 名橋「日本橋」保存会会長、 東京商工会議所前特別顧問、

日本商工会議所前特別顧問、 信州経済戦略会議委員

< 主な受賞など >

2005年 フランス共和国国家功労勲章オフィシエ受章

2007年 英国名誉大英勲章 C B E 受章

『地域おこし日本橋

架橋100年を前に 振り向くと未来が見える』

谷 大変長らくお待たせいたしました。ただいまから第36回都市・環境フォーラムを開催させていただきます。本日は、暮れのお忙しい中、お越しくださいます。まことにありがとうございます。

本日のご案内役は、私、広報室の谷礼子でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本日のフォーラムは、ご案内のとおり、名橋「日本橋」保存会会長でいらっしゃる中村胤夫先生からお話をいただきます。

本日は、『地域おこし日本橋 架橋100年を前に』と題してご講演をいただきます。

中村先生は、三越の代表取締役社長、そして代表取締役会長を経て、現在は特別顧問でいらっしゃいます。

本日は、皆様よくご存じの日本橋について、その名前の由来、そしてまたその歴史、そして今なぜ日本橋が注目されているのかなどについてお話をいただけるものと思います。

それでは、早速、ご講演に移らせていただきます。皆様、盛大な拍手をもって先生をお迎えください。(拍手)

先生、よろしくお願いいたします。

中村 ご紹介を戴きました、名橋「日本橋」保存会会長の中村と申します。一昨日、グリーンライトプロジェクトと称しまして三井本館と日本銀行の通りで点灯セレモニーを行いました。大変寒く風邪をひいてしまいました。お聞き苦しい点をご容赦下さいませ。

日本橋のあゆみ

本日は日本橋物語をお話させて戴きます。なじみ深い方もいらっしゃると思いますが、おさらいの意味でお時間を頂戴できればと思います。

来年 2011 年が石の橋になってちょうど 100 年でございます。架橋 100 年ということで、「日本橋」のあり方やイベントについてもいろいろ考えている最中でございます。この節目にお話をさせて戴く機会を設けて下さいます、私共も日本橋の住民にとりましても大変ありがたいと思っております。まずは日本橋の歩みについて。ご存知の方も多いと思いますが、今から 407 年前の慶長 8 年（1603 年）徳川家康が征夷大將軍として江戸に幕府を開いた年に、日本橋は架橋されました。それ以前の江戸は、15 世紀の中ごろ、江戸氏の館跡に太田道灌が築城し、その後は北条氏が治めておりました。

天正 18 年（1590 年）家康が江戸に入国した際、当時、豊島の洲崎と呼ばれておりましたアシの原っぱと沼地を埋め立て、現在の京橋・銀座地区が誕生いたしました。両地区の誕生により江戸は南北に長くなり、南と北をつなぐ橋として「日本橋」が架けられたたという事でございます。

また慶長 9 年（1604 年）に、日本橋が、東海道、中仙道、日光街道、奥州街道、甲州街道、いわゆる五街道の全国里程の元標に定められ、一里塚の起点となりました。

現在、日本橋を起点としている国道がいくつもあります。それまでの東海道は国道 1 号、それから第二京浜も入っておりますので 15 号、中仙道が 17 号、日光街道と奥州街道はつながっておりますから 4 号、甲州街道が 20 号、それ以外に後から水戸街道が 6 号、成田街道、千葉街道が 14 号、これだけの国道の起点となっております。

また、日本橋は水の都ともいわれまして、舟運、船での運送のネットワークの中心地でございます。

日本橋の由来にはいろいろな説があります。1 つには、三浦浄心が書いた「慶長見聞集」に、日本国の人が集まり、江戸開府の整備工事に携わったことに起因して、日本橋と言うようになった。何だか分かったような、分からないような話でございますが、要するに日本じゅうの人が来て作業をしたから、「日本橋」ということになったという事でございます。

また、銀座、日本橋地区の歴史に造詣の深い池田弥三郎先生は、「日本橋」が架けられる以前から、2本の木の橋であった事から二本橋とゆう名前になり、人や物流が盛んになると橋が大きくなり「日本橋」と呼ばれるようになった、ということでもあります。いずれにしても、「日本橋」の架橋により江戸は、みるみる大きく繁栄し最高時では130万人から150万人が暮らしていたといわれております。

私が勤めております三越の前身、越後屋呉服店は、1673年に創業し、1720年から1820年、享保から文政の時代が最も栄えました。その100年間で、1年にどのくらい売れたかと申しますと、当時の銀換算で年間1万2000貫、金で19万8000両、1両を8万円と致しますと158億円。大変大きな金額を既に売っております。これは世界一の小売業だと、三井文庫の由井先生がおっしゃっております。

また、当時は江戸の華といわれました火災も多々発生し、「日本橋」も焼け落ちること度々でございました。明治44年(1911年)に今の橋になるまでに、火災と老朽化のために19回架け替えられ修復工事が行われたといわれています。ちなみに、火災で橋が焼けたのは9回でございました。よって、今の橋は20代目ということになります。

当時の江戸、あるいは日本橋の繁栄について、もう少し敷衍してお話しさせていただきます。2003年の江戸幕府開府400年を記念いたしまして、江戸東京博物館で開催されました「大江戸八百八町展」の目玉展示物として出品された「^{きだいしょうらん}熙代勝覧」絵巻が大変話題になりました。ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、今から200年前、江戸一番の賑わいがあった文化2年(1805年)頃の状況をかいた絵巻物でございます。江戸の活況の様子を描いた約12メートルの絵巻物で、最近、中国美術のコレクター、キュステル夫妻の親族の屋根裏部屋で発見されました。最初は中国の物だと思われていましたが、たまたま日本の美術に詳しい人が見て、これは日本の江戸文化を描いたものだということで発見に至った訳でございます。現在はドイツのベルリン東洋美術館に所蔵されております。

この絵巻物は「日本橋」から今川橋までの約700メートル、現在の中央通りを、東側から俯瞰描写した作品でございます。作者は不明ですが、難しい字で「熙代勝覧」、その横に「天」と書いてありますから、天地人、3巻くらいありましようか定かではありません。

「熙代勝覧」とは、「熙（かがや）ける太平の世の勝（すば）らしい景観」という意味だそうでございます。お手元のパンフレットの中にも写真が入っております。

題字は、幕末の書家の佐野東州によるものでございまして、その絵巻の中には、瀬戸物問屋さん、雛市（お雛様の市）、若い花売り、呉服問屋、薬種といいますか薬を売る問屋さん、書物の市や魚河岸。中心には三井越後屋呉服店、両替店が描かれております。大変克明でございまして、人が1671人、犬が20匹、馬が13頭とはっきり数えることが出来ます。この絵巻物は、日本橋架橋100年に先駆け、私ども名橋「日本橋」保存会と日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会が共同で、地元の小津和紙さんの和紙を使い複製いたしました。2009年11月30日から東京メトロ三越前駅の地下コンコース壁面に設置され、毎日たくさんの方にご覧いただいております。機会がありましたら是非ご覧下さいませ。当時の日本橋はまさに江戸の商業、経済、情報の中心であったということがお分かりいただけると思います。

さて、石造りの日本橋でございますが、100年という長い年月に耐え現在も立派に使われております。機械や技術が発達してない当時、曲尺とメジャーだけで造り上げた人々に焦点をあててみたいと思います。

皆様方は専門家でございますので、ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、架橋の竣工技師は米元晋一主任技師、技師長は日下部弁二郎です。その弟さんに当たる人に文人の巖谷小波さんという人がいます。

当時の三越呉服店では、外部の人を顧問として様々なご意見を戴く流行研究会を開催し話題になりました。その主幹をやっていたのが巖谷さんです。

また、工事監督は樺島正義さん、橋の上の装飾は妻木頼黄（よりちか）さんが中心となって行いました。妻木先生は横浜の正金銀行、現在の神奈川県立歴史博物館や東京府庁の設計で名を上げた有名な建築家でございます。今も東の欄干外側に関係者名が書かれておりますので、機会がありましたらご覧下さいませ。

石は、ご存じのとおり花崗岩、別名御影石ともいいますが、それとコンクリートで造られております。この石を切り出してつくった中野組の5代目社長さんを最近訪ねてまいりました。笠間市の田舎の石でございまして、色調が美しく、鮮度、耐久性も申し分ない。また大量に取れ、消費地に近いことから、「日本橋」以外にも、日本銀行、東京証券取引所、国会議事堂にも使われました。来年の100年イベントには、今も石

を切り続けているこの5代目社長さんに陣頭指揮をとって戴き、笠間の石で文鎮などの記念品を作ろうかと考えております。

では、この橋の建築費用はいか程であったかとお思いでしょうか。国土交通省の調べによりますと当時の貨幣価値で約51万円だそうです。当時の物価と現在では資材を7000倍と仮定し、人件費については大工の上昇率2万2000倍。その結果、工事費は約70億円になります。

話を戻しまして、橋の四隅と中央部分には花崗岩の装飾台を設け、我が国初めての西洋風の獅子と麒麟が飾られました。これは「麒麟あらわるれば聖人来る」の故事によるものでございます。麒麟は、頭が龍、胴が鹿、それに羽を持っている想像上の動物でございます。獅子は、鎌倉時代の運慶の狛犬を参考に、東京の紋章と、全国里程の起点ということで、一里塚の松やカエデを配して鑄造されました。いずれも青銅製でございます。戦後、黒く塗装された彫像の作者は有名な彫刻家・朝倉文夫の実兄にあたります渡辺長男（まさお）でございます。

欄干に書かれております、ひらがなの『にほんはし』と、漢字で『日本橋』、こちらは当時の東京市長・尾崎弴堂、別名尾崎行雄が徳川慶喜に揮毫を依頼し江戸以来の日本橋という伝統の重みと、時代の先端をいく「橋」という革新性を具現化したものと思われます。

明治44年（1911年）4月3日、いよいよ開通式でございます。雨天にもかかわらず、10万人の見物人が集まり、式典、芸人の踊りなど、盛りだくさんのイベントが行われました。当時の三越の記録によりますと、店内は身動きができない状況で、ついに入り口を閉鎖、大変な人ごみであったということが想像できます。その後江戸から東京へと呼び名は変わっても、日本橋地区は依然として金融、経済の中心地として、近代化日本を支えてきたわけでございます。

大きな変化が起きます。大正12年の関東大震災でございます。この震災で「日本橋」のブロンズの照明灯、欄干などが破損。当時、東京市の罹災率は73.4%、日本橋地区は全世帯数の93.3%、焼失面積に至ってはほぼ100%という、全域が罹災しました。時の作家、田山花袋は「日本橋付近は変わってしまったものだ。もはやあたりに昔のさまは見出せない」と言っています。今も「日本橋」の橋の裏側を船から見ると、すすで一面真っ黒く、当時の火災のすごさを感じ取ることができます。

かつて東京市長であった後藤新平は、内務大臣に就任するや、すぐに東京の被災復興事業に取り組むこととなります。その事業の1つが、昭和通りの新設でございます。東京を近代的市街地に着々と変え、その象徴的なものが日本橋地区繁栄の源泉であった日本橋魚河岸市場を築地へ移転し、東京中央卸売市場としたことです。昭和10年（1935年）から事業が開始されましたが、川幅の狭いこの川には船舶の大型化と陸上交通の発展が、利用度に限界が生じました。その結果日本橋市場の繁栄にかげりをもたらし、更に魚河岸の築地移転が、物流の拠点としての日本橋の優位性を低下させました。

2つ目の変化は、東京駅が開業し、昭和12年の丸ビル、郵船ビルの建設が丸の内オフィスセンター化を加速させました。

3つ目は、銀座地区がモダンな繁華街に変貌し、人の流れが銀座に銀座にと移っていったわけでございます。

時が下って、太平洋戦争では焼夷弾の爆撃をたびたび受け、今も痕跡が生々しく残っております。先日、橋をきれいに洗いましたが、そこだけはしっかりと残させていただきました。

こういう苦難の時代を経て、「よみがえる日本橋」というテーマを掲げ、名橋「日本橋」保存会が結成される訳ですが、その結成までのプロセスと活動についてご紹介させて戴きます。

よみがえる日本橋

震災で多くの川が焦土の廃棄場として埋め立てられましたが、日本橋川は、住民の声が生かされ幸い埋め立てられずに現在も川の流れを維持しております。また、日本橋が風格を感じさせる今日の街並みを維持しているのは、日本橋に住み働く人々の、まちと橋にかける熱い思いと、そして粘り強い努力の結集だと思えます。

昭和22年（1947年）に日本橋区と京橋区が合併し、中央区が誕生いたしました。その際、旧日本橋区内の町名にすべて日本橋の文字を冠するという条件を行政側から住民が勝ち取りました。日本橋に対する住民の強い思いの結果だと思えます。いわゆる日本橋人形町、日本橋浜町、日本橋小舟町等々。まさに日本橋人の誇りと心意

気を世に示した実例でございます。

また、地元の強い思いの結集した団体の1つに、私が会長を務めさせていただいております名橋「日本橋」保存会があります。

1960年代になりますと、高度経済成長、モータリゼーション時代に突入し世の中は目まぐるしく変わってまいりました。東京でのオリンピックの開催が決定しますと、道路事情が急速に進み、昭和37年(1962年)に日本橋川の上に首都高速道路が建設されました。オリンピック開催の昭和39年(1964年)に日本の国威を世界に知らしめたわけですから、川の上の高速道路は大きな役割を果たしましたが、時が経つにつれいろいろ問題が出てまいりました。日本橋川の上空に蓋をかぶせるように高速道路が走り交通の便はよくなりましたが、空が見える今までの水辺の存在感はなくなってしまいました。かつて、白木屋(現在のコレド日本橋)側と三越側とは「日本橋」を介して一体でした。橋を挟み同じような感覚でおつき合いができましたが、高速道路が大きな壁となり一体感が失われつき合いも若干おろそかになってきている気が致します。

そこで、従前の日本橋の美しい姿を保持しようと、名橋「日本橋」保存会が昭和43年(1968年)に、地元町会、企業、住民の方々により結成されました。この会のユニークさは、保存会という名前ですから、相当保守的だろうと思いきや、守りよりも攻めの姿勢にあります。地域社会の発展を目指して、『日本橋』という地元の情報誌を育成し、昭和58年(1983年)には「よみがえれ日本橋」という決議を行い、「日本橋」上空の高速道路の撤去運動を開始いたします。また、毎年「日本橋」を洗い清める橋洗いや、全国こども橋サミットの主催実施、正月の箱根駅伝を誘致したりと、生き生きとした活動を繰り広げております。

昭和47年、都電の廃止が決まり、ときの佐藤栄作総理大臣によって東京市道路元標に新しく「日本国道路元標」という文字が揮毫され、橋の中央に移設されました。これは円盤型でございます。今までの道路元標は、電柱みたいに立っている形でございます。

先日まで行っておりました、橋の水漏れ防止工事期間はこの道路元標もいったん取り外しておりましたが、工事が終了し12月12日にもとに戻すセレモニーを行いました。現在は橋のど真ん中に設置されております。

その後、平成11年に、「日本橋」と東京市道路元標が国の重要文化財に指定されま

した。平成の不況のさなか、平成12年(1999年)に結成された日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会も活発な地域活動を行っております。この会は、保存会が対象とする橋周辺の町会や企業に加えまして、日本橋地域全体の町会と企業によって構成され、日本橋がかつてのにぎわいを取り戻し、豊かで潤いのある街によみがえることを願って組織されました。この会と名橋「日本橋」保存会は構成人が殆ど同じでございますので、常に連携し仕事をしております。

次に、日本橋再生プロジェクトの話をお話させていただきます。これは高速道路撤去作戦が最大の課題でございます。2007年1月25日に「日本橋プロジェクトについて」という題で伊藤滋先生がお話しておりますので、おさらいの意味でお話を進めたいと思います。

東京オリンピックのインフラ整備のために、高速道路を日本橋川の上に造ることになりました。その結果、生き物が春夏の水温が上昇時に必要とする溶存酸素(水の中に含まれる酸素)が希薄となり、徐々に姿を消していきました。また川底に堆積されたヘドロからガスが発生し、悪臭を放ちイメージを大きく損なう結果となりました。昭和58年(1983年)、保存会が「よみがえれ日本橋」という決議をいたしました。この決議文は大変名文でございますので、趣旨だけを読ませさせていただきます。

「よみがえれ日本橋」の趣旨。

「天下の名橋であり、わが国道路の原点である日本橋に、昔日の面影はない。高架高速道路の足元に喘ぎ、美観、風格は損なわれ、かつての威風は地に落ちたと言わざるを得ない。わが保存会としては東京オリンピック成功を担った高速道路のはたらきに賛辞を惜しむものではない。然し、わが国における日本橋の存在は限りなく巨しく、国民の心に脈うつ日本橋への愛情の念は、いよいよ深い。われわれ保存会は、こよなく日本橋を慈しみ、橋洗いなど日常活動を実施しているところである。わが日本橋に、かつての如く陽光がふりそそぎ、街に生气と潤いの満ちる日を架橋380年を閲した今、待望するや切である。」

これは昭和38年10月12日に決議しておりますから、架橋380年という言葉を使っております。

この運動はおよそ20年間、中央区でしか市民権を得られず、ようやく平成13年(2001年)に地元の願いが国と東京都に通じ、重い腰を上げさせました。この辺は

伊藤先生に話していただいたと思いますが、ときの扇千景国交大臣が日本橋高速道路問題を都市再生の重要課題と位置づけ東京都心における首都高速道路のあり方委員会を設置し、国交省中心にこの問題の検討が本格化いたします。

検討の結果、平成14年(2002年)に1つは高速道路の撤去、2つ目が撤去して両サイドの道幅を拡幅、3つ目が移設して高架化、4つ目が移設して地下化、という4案が公表されました。そして、国、都、中央区、地元を巻き込んでの大論争が始まります。いずれの案も決め手を欠きましたが、区と地元は地下化の案で意見が一致しておりました。

平成15年に、この問題打開を図るために、国と都、中央区、地元が参加した「日本橋みちと景観を考える懇談会」を設置いたします。

平成16年(2004年)この会の主催で日本橋まちづくりアイデアコンペを実施し、国内外から320余点の応募がありました。具体案検討中に、小泉総理大臣、伊藤滋先生、中村英夫先生、奥田碩経団連会長、三浦朱門日本芸術院院長、総理大臣を別にして4人委員会というものが誕生し、日本橋と高速道路の改善案をまとめました。小泉総理の「早くスタートしたほうがいいよ」の一言でやっと国家的プロジェクトとして取り上げられることとなります。

平成18年4月、景観法成立を機に設立されました「新しい景観を創る会」と千代田区、中央区が共催でシンポジウムを開催し具体的な改善案が同時に加速していきます。

平成18年9月に有識者会議「日本橋川に空を取り戻す会」、この主催は日本橋みち会議で、座長は伊藤滋早大教授でございます。アイデアコンペにも幾つか出ておりました浅い地下案を小泉首相に提出いたしました。高速道路を、日本銀行と三越がある日本橋川の北岸と、地下鉄の銀座線都営浅草線の上部に上下4車線を埋め込もうというものでございます。

日本で指折りの地価の高い地域で、総事業費を抑制しながらいかに迅速に事を進められるか。また、用地費用のかからない方法による土地交換、容積移転など相当な工夫が必要となります。高速道路をつくり直す以前に、出来る限り経費を抑えて河岸を空地化することに日本橋地域の人々が努力することも必要となります。単なる道路改築計画ではなく、日本橋全体のまちづくりの一環として道路の再配置を強く訴えていかなければなりません。今までの効率性、経済性優先の都市政策にかわって、人間主

役のまちづくりを進めるシンボリックな事業を国内外にアピールする必要がある。これらの課題に挑戦して、高速道路撤去計画が単に多額の公費を投入する開発ではなく、日本橋の、そして中央区のまちづくりであることを明らかにするために、平成18年（2009年）9月29日、地元の人々を中心に日本橋再生推進協議会を発足させ、現在いろいろ知恵を絞り汗を流しております。

民官、普通は官民といいますけれども、民が主催で官がバックアップしていく。そういうPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）の新しい手法の採用だと思えます。

民間が再開発を先導し、川の両側に遊歩空間を設置する。公共事業として、首都高速道路の地下化と河川環境整備を行う。民間は恩恵の一部を公共事業に還元し、公共は事業を迅速に行う。いろいろ論じられておりますけれども、川沿いの市街地の容積を広域にわたって移転するには、現在のビルを移動させ、土地の容積を移転する。これは地元の相当な決断が必要であります。今そんなところで迷いながら進んでおりますが、市民から運動として沸き起こらない限り、成功しないだろうと認識しております。

高速道路だけに限って運動してもらいが明きませんので、周辺から少しずつ攻めていこう。その1つが、水辺空間を生かしたまちづくりです。水辺をイベントで活性化し、景観を少しでも良くしていこう。水辺のイベントと申し上げましたが、「日本橋」の橋洗いや日本ボート協会の協力を得まして、小学生のボート遊びも企画しております。また、来年からは観光しながらの船乗り遊びも計画中でございます。

川から見る日本橋、本来はきれいなはずが、いつの間にか、川からの街並みが大変お粗末になっていました。汚い。そのため、石垣や周辺の景観の整備にも手をつけております。昔の石で積み立てた石積み護岸が常盤橋周辺にまだしっかりと残っておりますが、ここも整備再生していこうと考えております。

高速道路が移転した暁には、川の両側にプロムナードができ、人が集い楽しむ場所、あるいは散策できる場所をつくろうという夢があります。既に一部、国分さんの前に川に面したオープンスペースでレストランを開業している場所もありますので一度見ていただきたい。そして、来年完成予定の船着場も、水辺の活用案をいろいろと考えております。

また、「ECO-EDO日本橋」という運動もしています。日本橋は、江戸からの様々

な文化、風習、習慣をDNAとして持ち、それを生かしながら生活しております。ECO-EDOとは、江戸からエコロジーとゆう運動でございまして今、環境問題が大変話題になっておりますが、政府の新成長戦略の1つにも、グリーンイノベーションという言葉で環境を大きく取り上げております。

江戸のまちに暮らした人たちは、ものを大切に自然と共生する知恵と技術で循環型社会を実現していました。江戸のまちに息づいた共生の精神を今に生かし、新たなスタイルを創造し発信するまちづくりを日本橋から始めようと、平成20年の8月1日、「日本橋」の上で参加者全員が浴衣を着て打ち水大作戦をしながら宣言をいたしました。これも橋の上は高速道路で日が当たっておりませんので、橋詰めで行いました。

その後、町内会、企業、住民を巻き込みできるだけ数多くのイベントを展開し、打ち水だけではなく、マイ箸キャンペーンや、浴衣や着物を着ての行進。先日の300人の着物パレードは壮観でした。他にも和を中心にした催し物や行事、風呂敷文化の紹介等々も行っております。

ECO-EDO日本橋グリーンプロジェクトの一貫で、電力をできるだけ使わない、あるいはお金を掛けずビルのグリーンライトアップも行っております。一昨日の点灯式の際には、大畠経産大臣が出席し、生演奏会を聴きながら皆さんで語らいの一晚をすごしましたが、このような催し物を積極的に企画し、人が集まる賑わいあるまちにしようと日夜工夫をしております。

年末には「日本橋キャンドルナイト・江戸あかり」と称しまして、橋の上や路上に和紙でつくった行灯を並べ、風情のある江戸らしさを演出致しました。この企画で街づくりの目指す方向が見えたように思いました。

街路灯も一新しております。日本銀行は、元は金座でございましたので、街灯の間に金の帯を結び、縦じまの粋な姿を見せております。日本橋と生きる、江戸と生きる、そんなことを頭に入れながら、いろんなことにチャレンジしております。

現在、日本橋エリアを巡回しておりますメトロリンクという無料バスがございまして。このバスは廃油を燃料としており、日本橋の街並みを一周できますので、ぜひお乗りになっていただきたい。

名橋「日本橋」保存会は「毎日が祭りだ」を合言葉に、賑わいのある街づくりを目指し日々活動しております。日本橋の昼間人口は約65万人ですが、三井不動産のコレド室町、野村不動産のYUITO（ユイト）という商業施設の建設により更に増える

ことでしょう。今までの室町二丁目は明かりがなく中央通り片側が死んだようでした。夕方になると人も途絶えます。そこにこのような新しい商圈が出来まして、人が行き来し、にぎやかな街がよみがえって参りました。

日本橋では今あちらこちらで、このような状況がおきております。日本橋に行くと何か新しい発見ができる、あるいは何か楽しいことをやっている。そんな思いをめぐらし、人々が訪れ、昼間人口が増えている。これは交流人口といっても差し支えないと思います。交流人口が増えるということは、そのまちに魅力がある証でございます。私どもと致しましてもこの様な面で更に知恵を絞っていきたいと思っております。

参考までに中央区にお住まいになっている方の人口は平成12年(2000年)が7万2526人でした。当時、矢田区長も、どうなっちゃうんだろうと大変心配していました。夜の人口である住民が少ないということは、まちの活性化もおぼつかないということで、努力の末、平成21年7月1日の人口は4万人増え、11万2426人になりました。最近、東京の人口は増えておりますが、地方ではどの町も年々減っております。こうした中での中央区の人口増加は、都市化傾向にあることは否めませんが相当な努力の証でございます。

日本橋の行事のひとつに毎年1月3日に行われます東京箱根間往復大学駅伝競走がございます。今年で12回を迎えるこの日本橋コースは、「日本橋」架橋88周年、箱根駅伝75回大会に当たる平成11年に最終第10区で日本橋の橋上を通る日本橋コースが実現いたしました。もちろん、主催をしている読売新聞さんや陸連の協力があるからこそだと思います。銀座を通るコースは銀座さんがよしとしなかったため、現在の京橋から日本橋のコースに変わり毎年たくさんの方が路上を埋め応援をしております。さすがの銀座さんも、今やりたいといっても簡単にはできない状況でございます。何故かといいますと、私が当時、銀座三越の店長をやっておりまして、人が通ると汚れるから、あるいは警備などの応援に社員を出さなくてはいけないからと理由をつけて反対したわけです。私個人的には反対しませんでしたよ。店として反対した記憶がありますので、今は残念だなと思いますが後の祭りでございます。「日本橋」は明治44年4月3日に開通式を行いましたので、その誕生日に一番近い日曜日に毎年春の名橋「日本橋」まつりを開催致しております。年々にぎやかになりまして、諸国の物産市など全国各地から催し物の出店申込があり、昨年は日蘭通商400年を祝い平戸から日本橋までの約1030キロを歩くイベントを行いました。

駅伝ではなく一人で歩くのです。参加者は陸軍・海軍の兵隊の皆さんで、その脚力にはビックリ致しましたが、遙か1030キロの距離が繋がったように思います。

また、天山山脈ふもとにありますキルギス国はシルクロードの流れを汲んでいることから日本橋と縁が深く、このイベントの際にも橋のたもとで民族楽器の演奏を行いました。

夏に行われます、橋洗い前日には全国こども橋サミットを毎年開催いたしております。日本全国から、小学校高学年の皆さんが『おらが村の名橋』を物語を交えながら宣伝にやって参ります。毎回ではございませんが、半数ほどは普通では入れない日本銀行の講堂で行われます。日本銀行も向こう三軒両隣ということで積極的に協力して戴いております。

平成14年から続けておりますこの大会は今年で9回目を迎え、63校112名の生徒がおらが村の橋を自慢しあいます。新潟の万代橋、東海道の終点京都の三条大橋、岩国の錦帯橋、静岡の蓬莱橋、遠くは沖縄の天女橋などが話題となりました。

わが町の自慢話を発表することで、子供たちのコミュニケーション力や思考力が育まれ、毎年行われることにより継続し創意工夫する力がつくと、先生方から大変講評でございませ

そして翌日が、「日本橋」の橋洗いです。主催は、国交省の東京国道事務所と私ども保存会でございませ。それから地元町会も共催でございませして、企業、法人会、日本橋に関係あるロータリークラブ、消防団が総出で橋をごしごしと洗います。今年は1600名の方にご参加戴き、洗う場所がないくらいのにぎわいでした。地元だけで1600名ですから、よそ様からどうしても参加したいといっても断らざるを得なく、残念ながら外部からは参加できません。

最初は普通の洗剤で洗っておりましたが、川に害を与えないよう、有用な微生物の入ったEM団子から作った石鹼で洗っております。

当然、洗うときには警察の許可をいただき、全面通行止めにし、大変にぎやかな日本橋の名物イベントでございませ。

先ほども申し上げましたが、日本橋川は大震災、戦争、高速道路の建設などにより大変汚くなりました。東京の川は全体的に汚いのですが、とくに日本橋川はヘドロが詰まり悪臭を放つ汚い川でした。

しかし、なんとか綺麗にしたいという強い思いから、以前よりEM団子を使っていた

大阪の「なにわ八百八橋・橋洗い」に視察参加いたしました。

パンフレットにもございますように有用微生物群の団子もしくは液体ですから川の洗浄はもちろん、飲むことも出来ます。身体の調子がいいという人も結構います。平成17年より、NPO地球環境共生ネットワークの技術協力のもとに、EMを使って日本橋川の浄化活動を行っております。2005年から始めて、2007年にはハゼが戻ってまいりましたし、今ではハゼ釣り大会を行っております。そして2008年の3月にはボラの大群が確認され、今ではスズキやボラ、エビ、カニ、それからオオサギ、カワウが見られます。EMの効果はみるみる現れ、ヘドロがなくなり魚が住める砂利の川底になりました。EM団子でヘドロを分解する一方で、千代田区と中央区の間の千代田区神田三丁目にEM活性液培養設備をつくりまして、毎週10トンの活性液を流しております。EM団子は合計で30万個近く投げているのでしょうか。ですから、相当浄化されています。

ただ、大変残念なことに、日本橋川にはまだ生活用水が流れ込んでいます。特に雨の降った2～3日後は、きれいな川ががらっと変わって汚くなります。川の再生には行政と一体化し生活用水の浄化場を作り、流れる水をきれいにしないと、いつまでたってもいたちごっこです。

日本橋川から相当のEM液が流れ込んでいる東京湾もきれいになっているはずです。

ちなみに、日本橋川は、皆さんご存じだと思いますが、井の頭公園の池に源を発し、飯田橋、御茶ノ水を経て、水道橋駅で神田川から分流して、神田橋、「日本橋」などをくぐって隅田川に流れていく4.8キロの川でございます。ですから、上流からきれいにしないといけないのですが、各地域も水の浄化、川の浄化を火急の課題として一生懸命取り組んでおります。近い将来は本当にきれいな川が見られるのではないかと楽しみにしております。

よみがえれ日本橋

最後になりますが、来年は架橋100年を迎え「よみがえれ日本橋」ということで私どもにとりまして総決算の一年でございます。100年の間ご縁をいただいた多くの方々に様々なかたちのイベントにご参加いただき、共に日本橋の活性化を図ろうと思っております。まず最初のスタートが箱根駅伝でございます。100年目の年、一番最初に通る大学はどこだろう、そして次はどこだろう、と日本橋沿道から応援したいと思

います。また、保存会として復路の優勝校にはトロフィーを贈呈する予定でございますが、それ以外にも共に功績を顕彰できればと考えております。

また、「日本橋」の誕生日であります 4 月 3 日に合わせ船着場の竣工をいたします。もちろん、船着場以外に、防災の役目も果たすわけですが、あわせて観光周遊の起点にしようとも考えております。潮の満ち引きが大きいため、固定した船着場の建設は難しいことから、浮き沈みする可動式にし、40 人程乗れる舟を定期的に回遊させようと考えております。将来的には隅田川から東京湾に出て、そしてスカイツリーを見ながら。また、夢は羽田から直接に日本橋まで船で来ていただき、観光の 1 つの拠点にしようとも考える昨今でございます。

誕生日前にも様々なシンポジウムや展示会を企画しております。

その前に、私は三越の一員でございます。正月の三越劇場では、「日本橋」という演目で新派が上演します。来年はすべてが「日本橋」に焦点を合わせて企画運営して参ります。4 月 2 日には、川越市や栃木市、香取市から小さな船で日本橋、大江戸まで来てもらい、サミットを考えております。川越や栃木、佐原は小江戸といいまして、昔の船の航路を再現してみようとの話も出ております。

去年一度、クラシックカー 20 数台のデモンストレーションを「日本橋」の上で行いしました。今年もクラシックカーに加えて最先端のハイテク・エコ車を皆さんにご披露しようと考えています。「振り返れば未来が見える」というタイトルにありますように、過去の伝統、文化を大切にしながら、今があり、そして未来を先導していくわけですから、私どもはこれからも、古いものの良さを再認識し、新しいものを橋の上で紹介していこうと思います。

4 月 3 日は 100 年目のパレードということで、3 代の 3 夫婦の渡り初めをします。既に人選が済んでおりますが、地元在住の 3 夫婦でございます。他にも珍しいお神輿もご覧いただきたいと思っております。これも今までご縁をいただいたからできることであり、そして何より日本橋というブランドがあるから来ていただけるものでございます。これからもこのブランドを更に磨き上げて大切にしていかななくてはならないと気が引き締まる思いが致します。

7 月 31 日の橋洗いには歌舞伎役者さんをお呼びし、船遊びをする案も出ております。

9 月 25 日には、日建設計さんもお協力されております U I A 世界建築会議があります。日本橋地区もいろいろな形で応援させていただくことも考えております。定例

のイベントのみならず新しい日本橋を、この100年を契機に創り上げていこうと試行錯誤いたしております。

まずは日本橋の橋をきれいにクリーニングしよう。これは私ども民間の団体だけではできませんので、国交省と相談をしながら、「日本橋グリーンプロジェクト」というものを発足させました。ドイツのケルヒャーという掃除機で有名なメーカーがあります。何となくジャパネットたかたのイメージが強いのですが、ケルヒャーさんは様々な世界の文化遺産をボランティアで、クリーニングしております。「日本橋」も重要文化財ですから、やってい戴くことになりました。ちなみに、これまでは自由の女神やバチカンのサンピエトロ広場の柱、アメリカ大統領の顔の巨大な岩彫刻でありますマウントラッシュモア、もクリーニングしているそうです。

100年の汚れを取るわけですが、温水高圧洗浄とパウダー洗浄、すすぎ洗浄という手法で本当にきれいになりました。でも、あまりきれいにしすぎると昔の風合いが失われてしまいます。古きを残し、とてもよい感じに洗浄されておりますので是非ごらん戴きたいと思います。

傷の補修は国交省のほうで苦労しながら修復しておりますが、来年2月末には終了予定です。4月3日には再生「日本橋」として祝う準備を着々と進めております。

橋は国交省の東京国道事務所が管理しておりますが、この機会に修復しようということになりました。昭和41年の修復から24年経っているわけですから、防水面が少しおぼつかない、防水補修対策をするために1つ1つの石を外して修理をしました。浸透した雨水が橋の中を通り抜け、漏水となって側面の石のところに出てきます。それが続くと、橋自体が傷むということで、上の石、中間のコンクリを全部はがして修復したわけです。普通でしたら3日か4日でできるのを、3カ月かかったんですね。

1つ1つ丁寧に石を外し磨いて、またそこにおさめる、工事に携わった方々の大変なご苦労により現在、石が収まっているわけです。また更に立派な橋によみがえり、これからの100年を持ちこたえてほしいと願っている次第でございます。

生まれ変わった日本橋のもとで、新しい100年を明るく夢をもって生活していこう。未来の江戸をつくるため、「世界に誇れる品格とにぎわいのあるまちづくりをめざす」にはどうしたらいいのか。江戸から受け継がれた様々な歴史と文化のDNAを今に直し、今に編集して世界へ発信しよう。そのためには、ECO-EDO日本橋の精神に

のっとり、自然と共生し循環型社会へ貢献する。また片方では、このまちの魅力を再発信することで水辺の空間ににぎわいを取り戻し、見上げれば青空の見える日本橋を取り戻そう。そして人だけではなく、光が戻った日本橋川には魚や水鳥が生き生きと生息する。そんな、まちと人と川が共存する関係を構築する。日本橋ならではのまちづくりが私どもの目する、未来の江戸の姿でございます。

今までは点でいろいろな仕事をしてまいりました。その仕事は線としてつながりました。私どもの三越、三井不動産さん、野村不動産さんのある中央通りは結構にぎやかになりました。日本橋が垣根となっけてしまひ途絶えているコレド日本橋、あるいは高島屋さんの地域とも一緒に活性化しています。だが、昭和通り側は日本橋と、人形町、小舟町あたりとの断絶があります。しかし、そこにも大変な江戸文化がある。これをなんとか繋げないと日本橋の本当のよさと魅力が出てこない。面としての日本橋の構築をいかに早急に組み立てるか。これも大きな課題でございます。

日本橋というブランドは、日本の中で確立されております。田舎に行っても日本橋、ああ、あの日本橋といわれます。でも、橋なのか、地域なのかハッキリわからない。いや、日本橋という橋でもいいし、地域でもいい。この曖昧なニュアンスを逆手にとり、日本各地から、また日本を訪れる多くの外国人の観光拠点としての日本橋であってくれればいいと考えるわけでございます。

韓国のチョンゲチョン川の復活が大変話題になっております。全長5キロ強でしょうか。人が集まって、散策をし、外国から来た人は必ず訪れて韓国の様々な文化を感じ取り楽しんでいる。日本橋もそんなまちに生まれ変わってほしいな。そのためにはどうしても高速道路が目障りだな。これは国に任せるばかりではなく、地元として、市民運動として解決していかなくてはいけないだろう。日本国プロジェクトにしていたわいたわけですから、黙ってばかりはられません。

政権が変わったから少しトーンダウンしたと思いきや、一昨日、大畠経済産業大臣が、「やあ、日本橋の話、よく知っていますよ。1000~2000億円くらいでできるんですよ」とおっしゃいます。「あれ、何で知っているんですか」と聞いたら「中村英夫先生の教えを受けました」と。民主党の方がいたらすみませんが、民主党も先を考えて、いろいろ案じている人がいるなど少しほっとしました。短期的な仕事ではないわけです。大きな流れの中で、この橋というものを考える。でも橋の移設は最後の目標ですので、それ以前にできることをまず徹底してやろう。自分たちのまちの中

で、自分たちの手でできることをしよう。それが先ほど申し上げましたいろいろなイベントであり、まちづくりへの協力、発信であろうかと思えます。

私の胸に麒麟のバッジがついております。橋の上の麒麟をデザインし、下のブルーは水と空でございます。それを象徴したこのバッジが、私どもの願う1つのシンボルでございます。

新しい100年を迎えて、面としての再開発を早急に組み立てることが必要である。そんなことを最後に申し上げます。この講演のお話を受けたとき、こんなに学術的な先生方が講師だと知りませんものでしたから、日本橋の説明をしたらいい、日本橋の宣伝をしていただいたら嬉しいということで、軽く受けてしまいました。お聞き苦しい点をご容赦いただいて、熱意だけを酌んでいただければ幸いです。日本橋をぜひよろしく願いいたします。

以上で終わらせていただきます。(拍手)

フリーディスカッション

谷 ありがとうございます。私も、先生のお話を伺ってしまして、確かに日本人で、飯田橋は知らなくても日本橋を知らない人はいないわけでごさいます、すごいブランド力だと思うんですね。ただ、そのブランド力に甘んじることなく、さらに地域の発展のためにいろんな仕掛けをしていらっしゃるということを、今日のお話を聞きましてよくわかりました。そこに古くて新しい日本橋があるんだということもよくわかりました。

それでは、皆様のほうから何かご質問のある方は、どうぞお手を挙げてくださいませ。いかがでしょうか。

河合（竹中工務店株） すばらしい話、ありがとうございます。

先生は商業にもかなりお詳しいということで、その面をお聞きしたいんですが、日本橋のにぎわいといったらやはり商業の面、リテールの面が大きいと思うんですが、銀座とか、東京のほかの地域と比べて、日本橋はここが商業的に違うぞという点があったら教えてください。

中村 日本橋には、老舗があり、近代的な百貨店がある。それが一緒になって融合しているまちだということです。銀座は、新しいファッションがどんどん入ってきて、ファッションが先導しながらまちが出来ていく。ショッピングが1つのレジャーであり、楽しみだということ、私も店長として経験してまいりました。ですから、滞在時間、滞留時間が銀座は非常に短い。日本橋は、お買い物にしても、散策するにしても、滞在時間が非常に長い。それだけ見るに値するものがあるからだと思います。ショッピング以外でも楽しめるというのが日本橋の良さです。これは、長い歴史を持つ老舗がたくさん残っているまちの財産であり魅力であると思います。

皆さんが日本橋に来て、何か違うとおっしゃる。地方から来た人も、私どもの会社に来ている人も、全然重みが違う。お客様がのんびりしている。そして、お客様がおしゃれをして来ている。そんなことを聞くにつけ、日本橋特有の何かがある。それはとりもなおさず、伝統文化と近代が融合しているからだと思います。入り混じっていると申しませうか。ここに、これから発展の余地があると思います。ただ商品を販売するだけでなく、商品と併せてまちの魅力も売っていく。まちを散策しながら楽し

んでいただく。

ちなみに、三越は来年の正月に、七福神めぐりを開催します。三越を拠点とし、人形町近辺の8つの神社を回るわけですが、1日8000人から9000人の人が参加いたします。新しい起点をつくる案も出ております。古い神社ですから、それぞれの故事来歴があり勿論新しいものもある。古いものを新しいものと感じ取る。これも文化のなせる技かと思えます。

河合（竹中工務店株） ありがとうございます。

中村 ちなみに、七福神は、日本橋小網町の小網神社、人形町の茶ノ木神社、蛸殻町の水天宮、人形町の松島神社と末廣神社。それから浜町の笠間稲荷、堀留町の梶森神社、日本橋本石町の寶田恵比寿神社でございます。

谷 先生、こちらは日本橋七福神というんですか。

中村 これは三越が最初です。私がつくった企画で、既に25回目です。

谷 では、ぜひ皆様、ご参加くださいませ。

ほかにどなたかいらっしゃいますでしょうか。実は先生のお話にもあったんですけども、日本橋川というのは、今日、皆さん、JRの水道橋からいらっしゃった方はご存じだと思いますが、ちょうど水道橋あたりのところが神田川と日本橋川の分岐点になっております。弊社の東京オフィスの前を通りまして4.8キロ、高速道路沿いに従っていきますと、日本橋にたどり着きます。非常にご縁のあるところなんです。私ども、川上にございますので、汚さないように、これからは努めたいと思います。

中村 一度、三越前の地下鉄コンコースを見てください。本当によく描かれている絵巻物でございます。なぜ和紙でつくったかといいますと、やはり和紙は長持ちします。

100年はもつでしょう。細かく説明文も出ておりますので、実際にご覧戴ければ、当時の日本橋が本当ににぎやかであったことがお分かりいただけます。現在の日本橋地区は人口が11万2000人ですが、明治時代は35万人でした。いかにこの日本橋地区が政治、経済、金融、情報の中心であったか。それが徐々に、あちこちに分散していくわけです。

銀行ひとつをとってみても、日本橋には、銀行の中心である日本銀行があります。

正式には、にっぽん銀行といいます。お札を見ていただければ、「NIPPON GINKO」とローマ字で入っています。にほん橋、にっぽん銀行と、いろいろ使い分けているようです。平成9年に閣議決定でどちらを使っても良いということで、大阪

の橋はにっぽん橋、東京はにほん橋と今まで通りに呼んでいます。少し話がそれましたが、いずれにいたしましても日本橋地区というのは、もっともっと日本に、世界に通用するまちかと感じます。

日本銀行があったから、地方銀行の支店がたくさんありました。今は便利になったので、支店が要らないんですね。東京証券取引所にしても、昔は立ち会いがあったから、にぎやかでした。今は立ち会がありません。時代の変化によって、まちは移り変わるわけです。でも、江戸からのDNAをたくさん持っている日本橋は、違った視点から攻めていけば、いろいろな形で再生することでしょう。そんなことを思いながら、違った視点から見る、あるいは違った物事の考え方をする人たちが増えないと、何となく固定化してしまうのではなかろうかと感じております。

谷 きょうは先生のほうから、三越さんの催し物ですね、展覧会の招待券をたくさんいただきました。先生、ありがとうございました。受付にございますので、お帰りのときにどうぞお持ち帰りくださいませ。

それでは、素晴らしい講演に対しまして、皆様、先生にいま一度大きな拍手をお送りください。先生、ありがとうございました。(拍手)

それでは、最後になりましたけれども、本年1年、フォーラムをご支援いただきまして、ありがとうございました。来年もどうぞよろしく願いいたします。皆様、どうぞよいお年をお迎えくださいませ。以上をもちまして、フォーラムを終了させていただきます。ありがとうございました。了



中村胤夫氏